

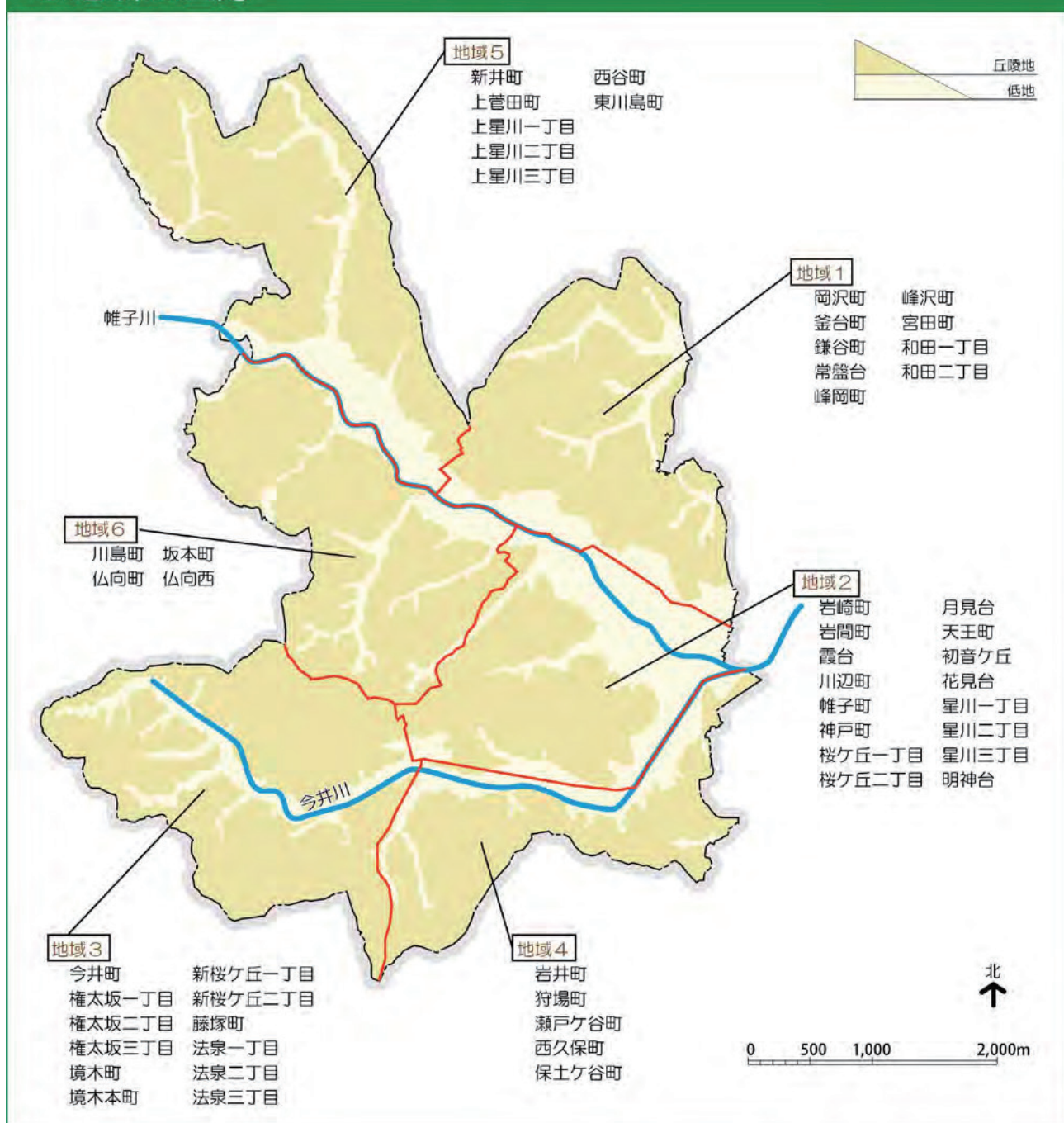
Ⅳ 地域別のまちづくり

この章では、次の6地域に区分したまちづくり方針を示します。

●各地域の状況（平成29年9月30日現在）

	地域1	地域2	地域3	地域4	地域5	地域6
面積	368.3ha	332.2ha	433.6ha	243.8ha	421.8ha	380.9ha
人口(人)	34,098	42,454	33,603	28,254	38,682	28,628
人口密度 (人/km ²)	9,258	12,780	7,750	11,589	9,171	7,516
高齢化率	24.23%	25.14%	27.53%	22.33%	28.54%	26.41%

6地域の区分



1 地域1のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 主要な道路沿線の低地部は、商業系機能を使って便利に生活できる
- 丘陵部の住宅地は、身近な生活機能や災害への備えが整い、安心して暮らせる
- 南北に行き来がしやすい交通体系が整備され、大きな病院や公園、区民利用施設などを身近に利用できる
- 横浜国立大学と周辺地域のつながりが深まり、まちを活性化させる
- 緑地や農地などの自然的環境が身近に残っている



<背景>

- ・緑地面積は少なくなっていますが、横浜国立大学や三ツ沢公園、常盤公園などまとまった緑を有する環境があります。
- ・北部は市街化調整区域や風致地区が広がり、農地や緑地が多い地域ですが、集合住宅や戸建住宅が立地しています。
- ・東部の住宅地では、急な斜面地や狭あい道路に沿って家が建て込み、急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所もあります。

- ・常盤台から三ツ沢の丘にかけて、横浜保土ヶ谷中央病院、横浜国立大学などの大規模な施設が連なります。
- ・丘陵部の住宅地は、横浜駅・三ツ沢上町駅・天王町駅・星川駅・和田町駅の各方面、それぞれに結びつく異なる生活圏をもっています。
- ・神奈川東部方面線の開業にあわせて、羽沢駅（仮称）周辺におけるまちづくりの進展が期待されています。

<まちづくりの方針>

土地利用

○農地と自然的環境を守る

農地が多く残る北部の市街化調整区域は農地の保全に努め、無秩序な市街化が進まないよう、周辺土地利用の計画的な誘導を図り、自然的環境を守ります。

○北部地区の将来構想を検討する

新横浜都心につながる峰沢方面は、緑の多い環境を維持しながら、神奈川東部方面線の開業にともなう新横浜都心（羽沢地区）の開発動向などを視野に入れて、将来構想を検討していきます。

交通

○安全・安心な歩行空間を確保する

歩車分離を図りながら、連続性のある歩道の整備を進め、安全で快適な歩行環境のネットワークを形成するとともに、駐車場・駐輪場の充実など車でも利用しやすいまちを目指します。

○駅周辺の交通環境の充実を図る

和田町駅周辺では、商店街や帷子川沿いの歩行環境の向上など、まちの魅力を高めていきます。神奈川東部方面線の開業にあわせて、羽沢駅（仮称）へのアクセスの向上について検討します。

○丘の南北をつなぐ交通網を充実する

大池道路と裁判所通りを生活の軸として、丘の南北及び地域内の行き来がしやすい交通環境を整えるとともに、安全な歩行者空間を確保します。

環境

○緑に触れられる環境を整える

峰沢方面や常盤公園、三ツ沢公園、宮田緑地等に残る樹林地を散策路としてネットワーク化させるほか、まとまった緑地について特別緑地保全地区などの緑地保全制度により保全し、身近に緑に触れることができる環境をつくります。

活力

○丘陵部の身近な生活機能や公共スペースを充実する

丘陵部の住宅地における日常生活を豊かにするため、日常的な買物のための生活利便施設や福祉施設、コミュニティ施設等の生活サービス機能の充実を図ります。

あわせて、便利な商店街づくり、使いやすい公園づくり及び自治会・町内会館等の利便性向上について検討します。

○丘の住宅地としての環境を守り育てる

建築協定などにより宅地の細分化を防ぐなど、良好な住環境を維持するためのルールづくりや、花や庭木の多いまちなみを形成する活動を進めます。そのような地域での自主的な取組を通じて、眺望のよい地点や緑地を、地域の合意の上で保全し、管理していく仕組みを模索します。

○横浜国立大学とまちのつながりを創り出す

大学及び学生が地域や商店街の活動に参加しやすい仕組みを整えるなど、交流・協力関係を深めていきます。また、大学の協力を得て、大学施設等の地域での利用について検討します。

○まちづくりに向けた合意を形成する

人口の減少や高齢化の進行が想定される中、地域への愛着や住民間のつながりを深めるとともに、一人ひとりがまちづくりへの主体性を高め、地域としての合意形成を図るような取組を進めます。

防災

○安全で良好な住環境をつくる

水害対策を進めるとともに、崖地の防災対策などを促し、安全・安心な生活環境を確保します。

地震による火災被害を軽減するため、減災・防災力の底上げを図ります。

「地震火災対策方針」における対策地域として、出火率の低減や初期消火力の向上等により、「燃えにくいまち・燃え広がらないまち」の実現を目指します。



2 地域2のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 低地部では帷子川を軸としたにぎわいの中にもやすらぎのある環境となっている
- 県立保土ケ谷公園周辺や丘を縁どる緑が保全されている
- 丘陵部では、緑の多い静かで落ち着いた住環境が維持されている
- 星川駅、天王町駅、保土ケ谷駅を結ぶ低地部は、さらに充実した都市機能を有した一体感のある区心部となっている
- 生活の軸となる道路では通過交通が少なく、安全な歩行者空間が確保されている
- 古くからの住宅地としての人のつながりが受け継がれ、住民がまちに愛着を持っている



<背景>

- ・県立保土ケ谷公園や丘を縁どる斜面緑地などの魅力的な自然環境が整っているものの、地域全体では県立保土ケ谷公園以外の緑地の占める割合は低くなっています。
 - ・丘陵部は大正から昭和初期に形成されはじめた成熟した住宅地で、学校群が特徴になっています。
 - ・低地部から斜面にかけては集合住宅の立地が、丘の戸建て住宅地では宅地の細分化などが進みつつあります。
 - ・斜面地では急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所があります。
- ・天王町駅から保土ケ谷駅にかけての低地部は、東海道保土ケ谷宿を起源とする歴史あるまちであり、保土ケ谷駅周辺はまちの玄関としての役割を期待されています。
 - ・帷子川沿いの低地部には、国道16号線に沿って、商店街や公共施設、大規模なマンションが立地しています。
 - ・公共施設、商店街などに恵まれ、利便性の高い地域ですが、通過交通が多く歩行環境を損なっています。さらに、丘陵部から国道1号線・16号線方面の交通上のつながりが悪くなっています。
 - ・相模鉄道本線連続立体交差化により、鉄道が高架化された後のまちづくりについて検討が行われています。

<まちづくりの方針>

土地利用

○区心部の都市機能を充実する

星川・天王町・保土ケ谷駅周辺は、文化やコミュニティ施設の利用促進、活気のある商店街づくりを進めるなど、区心部にふさわしいにぎわいのある環境を整えていきます。

星川駅～天王町駅間は、相模鉄道本線の連続立体交差化により市街地が一体化されることから、施設の更新や建替え等の機会を捉え、業務・商業機能の集積を進め、区心部の拠点性をさらに強化していきます。

○丘陵部では緑の多い住環境を保全する

建築協定や緑地協定などにより、敷地が広く緑の多い良好な環境を維持する活動を進めます。そのような、住民が主体となった取組を通じて、地域環境の向上に寄与している緑地などを、地域の合意の上で保全し、管理していく仕組みを模索します。

交通

○相模鉄道本線連続立体交差化にあわせ周辺の交通環境の充実を図る

相模鉄道本線の連続立体交差化にあわせ、都市計画道路や駅前広場の整備、駅や歩行者空間のバリアフリーを進めるなど、利便性・快適性の高い交通環境を実現します。

○安全安心な歩行空間を確保する

歩車分離を図りながら、連続性のある歩道の整備を進め、安全で快適な歩行環境のネットワークを形成するとともに、駐車場・駐輪場の充実など車でも利用しやすいまちを目指します。

○丘と低地を一体として、地域全体の交通制御を図る

地域道路に通過交通が流入しないよう、地域外周部などを通る幹線道路の整備を促進するとともに、丘陵部では一方通行化などの交通規制を導入するなど、総合的に交通体系を検討します。

学園通りは、丘陵部を東西につなぐ地域のシンボルとなる主要な生活の軸であり、十分な歩行者空間を確保するとともに、県立保土ヶ谷公園へと至る魅力的なプロムナードとなる道づくりを行います。また、交通量の多い危険な坂道における歩行者の安全確保を図ります。

○国道1号線へのアクセスを改善する

国道1号線へのアクセスを改善するため、岩崎・元町両ガードや上岩間踏切の改善、環状1号線の整備等の検討を進めます。

環境

○今井川の環境を向上させる

河川改修などにより水害対策を強化するとともに、川に沿ったプロムナードを整備するなど、親水性にも配慮して河川環境を向上していきます。

○身近なまとまった緑を保全する

県立保土ヶ谷公園周辺の緑地や桜ヶ丘緑地、神戸緑地など、区心部の背景となる景観を形づくっている身近な緑地帯を緑地保存地区などの緑地保全制度により保全します。

魅力

○帷子川の魅力をまちづくりに生かす

まちの中に潤いのある水辺空間をつくるため、帷子川沿いのプロムナードの連続化、周辺の緑化や公園の整備などを進めます。

○地域の歴史を生かし、つくり育てていく

天王町駅から保土ヶ谷駅にかけては、旧東海道を中心に、古東海道や相州道など多くの歴史的な道筋の重なりが存在しています。旧東海道保土ヶ谷宿を含め、各時代の歴史や多様な資源を改めて発掘し、地域の魅力として守り育てていきます。

○身近な歴史を地域の資源として残す

イベントや区民活動により、その魅力や価値が認められてきた洋館付き住宅や、保土ヶ谷カトリック教会など、大正・昭和初期の建築物を身近なところにある地域の資源として残していきます。

活力

○にぎわいのあるまちなみをつくる

天王町駅や保土ヶ谷駅周辺の商店街では、歩行者空間の充実や一層の駐車場確保などを図り、商店街のにぎわいを保っていきます。

また、大規模施設の更新や建替え等の機会には、地域への貢献が図られるような機能の誘導を進めます。

○まちへの愛着を持てるようにする

人々の交流を促すイベントや祭りへの地域ぐるみの取組、さまざまな区民活動の拠点となる場の整備、地域に密着した情報の伝達手段の充実などによって、古くからの住宅地における人のつながりが受け継がれ、まちに愛着を持てるようになります。

防災

○複合化した市街地として災害への備えに取り組む

水害対策を進めるとともに、崖地の防災対策などを促し、安全・安心な生活環境を確保します。

地震による火災被害を軽減するため、減災・防災力の底上げを図ります。

「地震火災対策方針」における対策地域として、出火率の低減や初期消火力の向上等により、「燃えにくいまち・燃え広がらないまち」の実現を目指します。

まちづくり方針図



学園通り
 ・安全性の確保
 ・楽しく歩けるまちづくり

<p>低地部市街地 ・魅力的な界わいづくり ・区の中核部の業務集積 ・災害のない市街地整備</p>	<p>主要な生活の軸 ・通過交通を呼び込まない ・低地の外周道路と一体での交通の制御 ・相模鉄道本線の連続立体交差化に伴う 周辺道路整備</p>	<p>主要な施設</p>
<p>丘陵部の住宅地 ・緑の多い環境を保全 ・協定などによる良好な住環境の維持</p>	<p>商店街等の振興</p>	<p>公園・緑地</p>
<p>交通ターミナル機能の充実</p>	<p>丘の縁 ・斜面緑地の保全</p>	<p>北 </p>
<p>交差点等渋滞の解消</p>	<p>相模鉄道本線の 連続立体交差化</p>	
<p>地震火災対策方針における「対策地域」</p>	<p>プロムナード整備</p>	<p>0 500 1,000m</p>

3 地域3のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 今井川の水と周辺の緑が豊かな自然を提供し、環境と調和したまちなみが連なっている
- 丘陵部では、緑に包まれたゆとりある住宅地の中で、落ち着いて暮らせる
- 高齢になっても、安心して住み続けられる生活サービスが、地域内に確保されている
- 東戸塚への利便性がよく、その都市機能の集積を便利に使って生活できる
- 住民誰もが、地域の文化・交流活動に参加しやすい環境が整っている



<背景>

- ・丘陵部の住宅地などでは高齢化が進みつつあります。
- ・まとまった市街化調整区域があるため、地域全体の緑被率は高く、今後も維持していく必要があります。
- ・国道1号線など谷筋の沿道型市街地では、車で利用するサービス施設や流通施設なども多く、複合化したまちなみになっています。また、丘陵部は比較的大規模な戸建てを中心とした計画住宅地などから構成されています。
- ・斜面地では急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所があります。
- ・区民が利用できる公共施設は比較的整備されているものの、鉄道、高速道路、幹線道路などにより分断され、行き来がしにくい住宅地があります。
- ・地域内に駅がないため、公共交通機関としてバスへの依存度が非常に高くなっています。
- ・生活圏として都市機能の集積が進む東戸塚との結びつきが強くなってきています。

<まちづくりの方針>

土地利用

○市街化調整区域の住環境を守る

西部の市街化調整区域では、地域の緑の環境及び住環境を守っていきます。

○ゆとりある住環境を維持する

丘陵部の戸建てを中心とした住宅地では、良好な住環境を維持していくため、建築協定や緑地協定などの制度を活用したルールづくりや、地域ぐるみで花や生け垣を生かしたまちなみづくりを進めます。

交通

○住宅地への公共交通の利便性を向上する

今井街道や環状2号線を通行するバス網の充実を事業者働きかけるなど、住宅地から東戸塚や区心部・都心部へ行き来しやすい交通体系の整備について検討を進めます。また、二俣川駅と東戸塚駅を経由し、市内の主要な生活拠点を結び、この地域の交通利便性の向上に寄与する横浜環状鉄道の検討に取り組みます。

○住宅地内に通過交通を流入させないよう、交通体系を改善する

尾根筋や谷筋を通る生活の軸となる道路の改善を進め、安全な歩行者空間の確保と渋滞の緩和を図ります。また、現道があるが着手時期未定の都市計画道路については、局所的な改善に取り組みます。こうした方策を通じて、住宅地内部には車を呼び込まないような道路体系をつくりだします。一方、幹線道路や鉄道で分断され、行き来しにくい住宅地間の交通環境の改善を検討します。

環境

○今井川を軸に、潤いある自然環境を育てる

河川の水質を浄化し、両岸斜面部に残る樹林地の緑をつなぎ憩いの場とするなど、今井川を軸として、緑と水の潤いのある環境づくりを進めます。

なお、ゴルフ場周辺の市街化調整区域内のまとまった緑地を源流の森保存地区などの緑地保全制度により保全します。

魅力

○歴史的資源を大切に守っていく

旧東海道沿いの境木地藏尊や権太坂など、歴史の面影を残す史跡や周辺の緑地を保全します。また、地域の歴史・文化を伝える資産の保全を検討します。

活力

○誰もが、いきいきと暮らすことのできるサービスを充実する

人口の減少や高齢化の進行が想定される中、安心していきいきと住み続けられるよう、身近な所で福祉・医療・買物などのサービスが受けられる環境を整えていきます。

既存の施設等を活用し、ボランティアや健康づくりなどの区民活動の場を確保するとともに、公共施設を利用しやすいように、アクセスの改善などを図ります。

○様々な住民間の交流を促進する

誰もが参加できる開かれた住民組織や、地域に根づいた活動を展開するテーマ型コミュニティが活動しやすい環境を整えるなど、住民間の交流を促進し、地域への愛着とつながりを深めていきます。


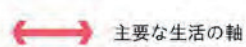


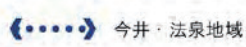


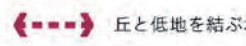

防災

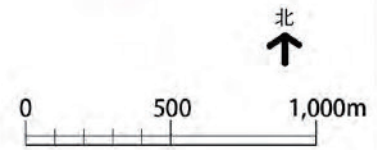
○災害に強いまちづくりを進める

河川改修などを進め水害対策を充実するとともに、崖地の防災対策などを促し、安全・安心な住環境を作り出します。

まちづくり方針図



- | | | | | | |
|---|--|---|---------------------|---|-------|
|  | 低地部市街地
・今井川を軸に潤いある
自然環境を育成 |  | 主要な生活の軸 |  | 主要な施設 |
|  | 丘陵部の住宅地
・協定などによるゆとりある
良好な住環境の維持
・健康、安心サービスの確保 |  | 今井・法泉地域と東戸塚を結ぶ交通の充実 |  | 公園・緑地 |
|  | 商店街等の振興 |  | 丘と低地を結ぶ坂道の改善 | | |
|  | 丘の縁 | | | | |



4 地域4のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 横浜市児童遊園地周辺が自然に触れ合える緑の拠点となっている
- 水害や崖崩れなど、防災上の不安がなく暮らせる
- 保土ヶ谷駅の周辺では、旧東海道の歴史の趣が感じられ、魅力あるまちなみの中に、にぎわいがある
- 急な坂道や階段の多いまちを、容易に移動できる道路交通環境が整い、幹線道路も歩きやすく整備されている
- 子どもを中心にした人のつながりや活動が活発である



<背景>

- ・人口密度が区内で最も高く、同様に人口増加率も高くなっています。緑は少なくなりつつありますが、横浜市児童遊園地をはじめとする一団の緑地があり、清水ヶ丘公園が隣接しています。
- ・低地部では浸水想定区域、斜面地では急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所があります。また、近年、低地部から斜面部にかけて集合住宅の開発が盛んに行われつつあります。
- ・今井川に沿った谷筋は国道1号線、東海道本線・横須賀線が通る大動脈となっています。

- ・市街地は旧東海道保土ヶ谷宿を起源とする歴史あるまちで、本陣跡などの宿場を偲ばせる史跡が残されています。保土ヶ谷駅周辺はまちの玄関としての役割が期待されています。
- ・国道1号線と環状1号線は、保土ヶ谷橋付近で慢性的に渋滞しています。国道1号線は順次拡幅整備が進み、保土ヶ谷橋付近は交差点改良を行っています。
- ・急な坂で上る丘陵部は、西・南区との区界をまたぐ形での住宅地になっています。社宅の立地が多く、集合住宅主体の住宅地になりつつあり、子育て世代の多い地域です。

<まちづくりの方針>

土地利用

○保土ヶ谷駅周辺の都市機能を充実する

保土ヶ谷駅周辺は、区の中心部として、文化やコミュニティ施設の利用促進、活気のある商店街づくりを進めるなど、区心部にふさわしいにぎわいのある環境を整えていきます。

交通

○効率的な道路ネットワークを形成する

低地部では、国道1号線について、交差点改良等に取り組みながら、整備を進めます。また、環状1号線の整備を進めます。

丘陵部では、横浜市児童遊園地南側道路や瀬戸ヶ谷小型バス路線の道路を、主要な生活の軸として整備します。

また、身近な地域道路の危険箇所の解消、歩行者空間の改善を図ります。

○国道1号線の歩行者空間を整える

国道1号線は広域的な幹線道路であるだけでなく、地域の生活の軸でもあり、拡幅整備にあわせて、十分な幅員と豊かな街路樹のある快適な歩行者空間をつくり出していきます。

○丘陵部の住宅地と周辺地域を結ぶ公共交通の 利便性を向上する

丘陵部の住宅地と、保土ヶ谷駅や区心部、都心部を結ぶバス路線の維持を事業者等に働きかけ、バスの利便性向上を目指します。

○保土ヶ谷駅周辺の交通環境の充実を図る

交通結節点としての機能を強化するとともに、駅周辺のバリアフリー化、駐車場・駐輪場の充実、活気のある商店街づくりなどを進め、便利なにぎわいのある環境をつくっていきます。

環境

○横浜市児童遊園地周辺を緑の拠点として充実 する

横浜市児童遊園地、環境活動支援センター、子ども植物園、英連邦戦死者墓地など、緑に囲まれた施設の連携を図りつつ、緑を生かした自然に触れ合える拠点としていきます。また、バス路線や周辺道路の整備、駐車場の充実など、アクセスを改善します。

魅力

○地域の歴史を生かし、つくり育てていく

保土ヶ谷駅から旧東海道沿いにかけては、保土ヶ谷宿をはじめとして、様々な時代の歴史的な資源が残されています。これらの資源を改めて発掘し、まちの魅力としてつくり育てていくとともに、まちづくりに活かします。

また、国道1号線の拡幅整備とあわせ、魅力ある沿道の景観を形成できるよう、取組を進めます。

○まちづくりへの主体的な活動を活発にする

東海道保土ヶ谷宿の歴史をテーマとした活動など、住民の主体的な活動が活発に行われ、まちづくりに生かせるような、仕組みづくりを進めます。

活力

○子どもを中心に、地域のまとまりや活動を 育てる

子育て世代の多い地域の特性を生かし、子どもを通じた地域活動への参加などにより、コミュニティを強化していきます。

○区民利用施設や福祉保健施設を整備・活用する

区民利用施設や福祉保健施設については既存施設を活用するとともに、地域ケアプラザなどの不足している施設を整備します。

防災

○今井川の環境を向上させる

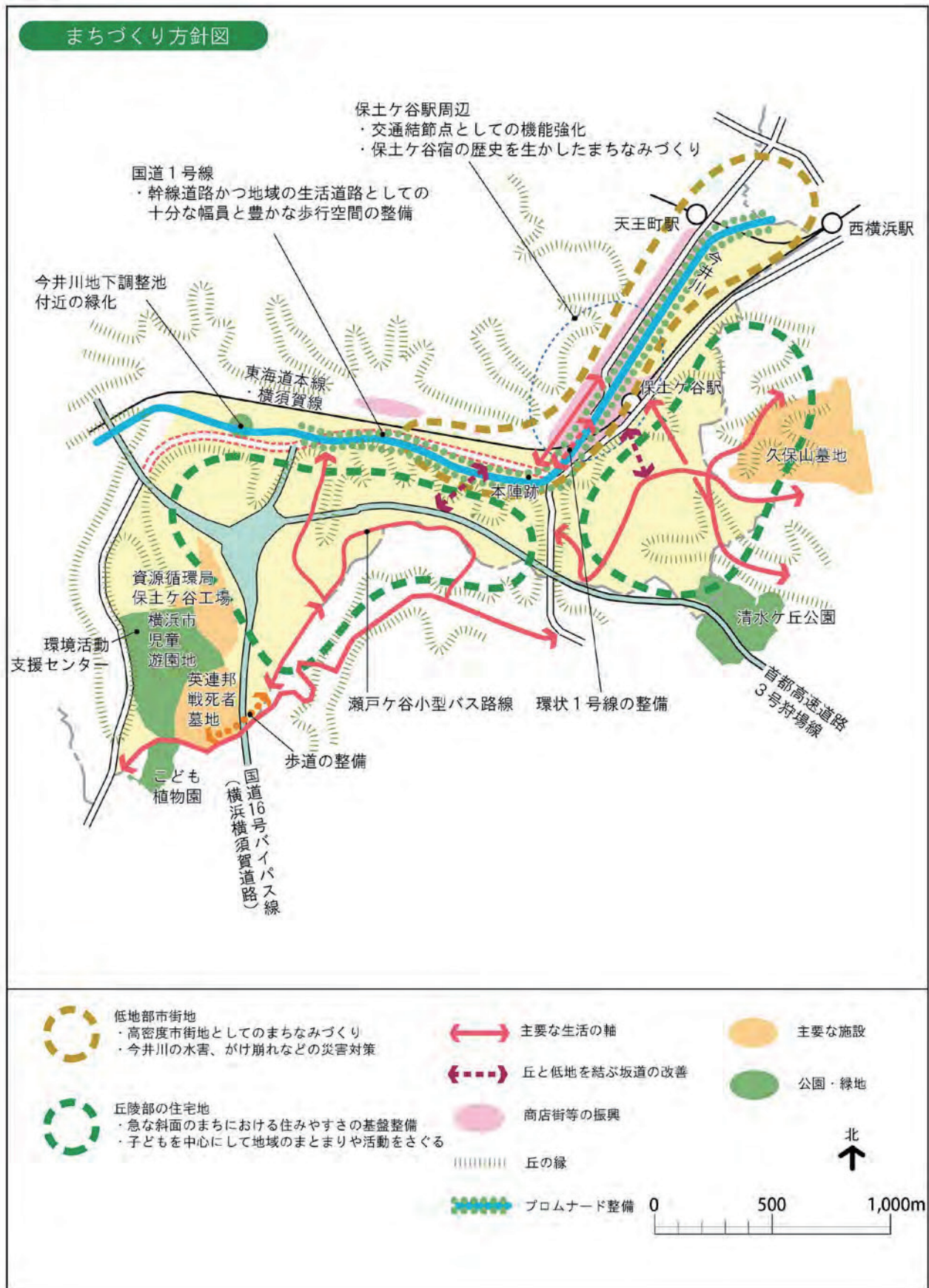
河川改修などにより水害対策を強化するとともに、緑地保存地区などの緑地保全制度により川沿いの緑地の保全や再生、水と緑の調和した河川環境をつくっていきます。

○急な斜面のまちでの住みやすさの基盤を整える

暮らしやすく安全な住環境とするため、急な坂道を上り下りしやすい方策を検討します。また、崖地の防災対策や急傾斜地崩壊対策事業などによる改善を促し、防災面での安全性を向上します。なお、急斜面地における住宅やマンション建設に際しては、緑地の保全や防災、周辺の住環境へ配慮した計画となるよう誘導します。

○低地部では災害対策を進め、便利で親しみやす いまちなみづくりに取り組む

河川改修などを進め水害対策を充実するとともに、崖地の防災対策などを促し、安全・安心な住環境を作り出すとともに、防災面で支障のある狭あい道路の改善を進めます。



5 地域5のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 緑地と農地を中心とした豊かな自然的環境が身近に残っている
- 地域全体が計画的に開発されるとともに、防災や防犯上の不安がなく暮らせる
- 西谷駅や上星川駅周辺が地域の生活拠点としての機能を満たしている
- 駅から離れた住宅地や団地からも、公共交通によるスムーズな行き来ができ、交通安全も確保されている
- 高齢者がいきいきと暮らし、若い世代も住みたいと思える環境が整っている



<背景>

- ・市街化調整区域が上新地区を中心に広がり、農業専用地区を始めとする農地や樹林地が多く、緑被率の高い地域ですが、公園の充足は一部達していない状況です。
- ・昭和30年代から40年代にかけて開発された住宅地が多く、区内で最も急速に高齢化が進行しています。
- ・市街地は、国道16号線沿いや丘に深く入り込む谷筋に広がる古くからの住宅地と、丘陵部に島状に開発された大規模団地や住宅地から構成されています。開発地に取り囲まれるように農地や樹林地が残っており、その保全が必要です。
- ・斜面地では急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所があります。
- ・都市計画道路が未整備の区間が多く、主要な地域道路の整備も十分ではありません。
- ・最寄り駅としては、西谷駅の利用が最も多くなっています。バス利用者については、渋滞の影響などにより、駅までの所要時間が長くなっています。
- ・神奈川東部方面線の開業にあわせて、西谷駅周辺におけるまちづくりの進展や、羽沢駅（仮称）へのアクセス改善が期待されています。

<まちづくりの方針>

土地利用

○市街化調整区域を含めたまちの将来像を描く

緑地・農地の多い住宅地や市街化調整区域においては、緑の景観を生かしながらまちづくりを行うよう誘導します。

○団地の環境を整える

地域内の団地については、計画的に住戸改善や建物の長寿命化とバリアフリー化を誘導します。建替えの際には周辺の環境向上に寄与するとともに、交流の場の整備や団地全体のバリアフリー化を進めるなど、多世代が住むことのできる住環境を整えていきます。また、団地内の良質な並木を住環境に生かします。

交通

○効果的に安全な道路ネットワークを形成する

鴨居上飯田線などの都市計画道路の整備を進めます。

あわせて、県道青砥上星川をはじめとする生活の軸の危険箇所については、歩行者と自動車共存し、安全に利用できるよう、沿道の協力も得ながら改善を進めます。

○駅周辺を魅力あるまちなみにする

上星川駅周辺では、駅の北口をバスターミナルとしての機能をさらに充実させるとともに、南口では水道道から駅へのアプローチを改善します。帷子川の水辺を生かしつつ、駅前広場や商店街の歩行者空間の充実に取り組みます。

西谷駅周辺では、神奈川東部方面線の整備を進めるとともに、駅へのアクセス動線や駅周辺の生活の軸となる道路の整備を図ります。

○公共交通機関を利用しやすくする

幹線道路の渋滞緩和や、道幅の狭い道路の改善等による小型バスの運行などにより、最寄り駅へのバスの利便性向上を支援します。

○地域の生活を支える交通手段を実現する

丘陵部の住宅地の暮らしを支えるため、買物や通院などをサポートできるような、地域の交通手段の実現に向けた取組を進めます。

環境

○まとまった樹林地を保全する

まとまって残っている緑を特別緑地保全地区などの緑地保全制度により保全します。

○川辺の魅力をまちづくりに生かす

潤いのある親しみやすい水辺空間とするため、川辺の道の整備や緑化などを検討します。

○農地を保全し、農とふれあう環境をつくる

営農環境の充実を図り、西谷駅北側に広がる農業専用地区を始めとした農地を保全します。また直売所の整備や市民利用型農園などの事業を活用し、区民が身近な場所で農業に触れることができる環境を整えます。

魅力

○地域の歴史や文化を継承し創造する

八王子道（絹の道）をはじめとした、地域内に残る身近な歴史資産を残していきます。西谷ばやしやどんど焼きなど伝統的な芸能・文化を大切に継承するとともに、豊かな自然環境を地域文化活動の場や発信の舞台として活用していきます。

○地域の特徴的な景観を保全する

川沿いの傾斜地に広がる斜面緑地や、丘の上の高台の見通しの良さ、谷をはさんだ向かい側の丘陵の眺めなど、この地域ならではの景観を保全します。

活力

○身近な所に交流の場などを充実する

丘陵部の住宅地では、日常生活圏の中で、商業施設や福祉、子育てなど身近な暮らしを支えるサービスが確保されるよう、住宅以外の機能の導入が可能となるような検討を進めます。

○多様な世代が活躍でき、安心して暮らせる

教育や子育ての環境を整え、若い世代の定着を図っていきます。あわせて、コミュニティハウスや地域ケアプラザ等の公共施設について、利便性向上について検討し、地域活動や福祉活動に参加しやすい場を整えるなど、様々な世代にとって住みよい環境づくりを進めます。

防災

○中小河川の洪水対策を強化する

菅田川や新井川などの中小河川が、集中豪雨による浸水被害などを及ぼさないように対策をするとともに、崖地の防災対策などを促し、安全・安心な住環境を作り出します。

地域5

まちづくり方針図

- ・身近な交流の場や医療施設の充実
- ・市街化調整区域も含めたまちの将来像づくり



6 地域6のまちづくり

<まちと暮らしの目標像>

- 清流や樹林地、そこに生息する動植物など、豊かな自然に身近に触れ合うことができる
- 緑に囲まれた静かで落ち着いた住環境を大切にして暮らすことができる
- 地域の生活拠点である駅周辺が、それぞれの特長を生かして魅力的に整備されている
- 交通ネットワークや歩行者空間が整い、丘から駅への利便性が向上している
- 自然や伝統文化を生かしたコミュニティが形成されている



<背景>

- ・区内でも緑被率の高い地域であり、帷子川の南側の急斜面の緑地や、陣ヶ下溪谷公園やたちばなの丘公園などまとまった緑地が残されています。また、まとまった市街化調整区域があり、さらに仏向地区では市街化区域内の生産緑地が多く、区内では農業の盛んな地域となっています。
- ・丘陵部の西側にくぬぎ台団地や西原団地、ハイム向台などの住宅団地があり、中央部には西谷浄水場が立地しています。
- ・丘陵部から駅へは、急な坂道や階段の上り下りが必要な所が多く、最寄り駅は西谷駅でありながら、バスを利用し、鶴ヶ峰駅や上星川・和田町駅を利用する割合が高くなっています。
- ・地域内の都市計画道路や狭あい道路の拡幅整備が遅れています。
- ・斜面地では急傾斜地崩壊危険区域や土砂災害警戒区域に指定されている箇所があります。

<まちづくりの方針>

土地利用

○駅周辺を魅力あるまちなみにする

駅周辺では、現在の親近感のある雰囲気を生かしながら、交流の場や情報発信を充実させるなど、にぎわいのある商店街を中核とした身近な生活拠点としての機能を強化していきます。

○緑豊かな住環境を保全する

特別緑地保全地区等の緑地保全制度や協定緑地の活用などにより、緑に囲まれた住宅地としての魅力を保ちます。また、市街地内の農地は、地権者の協力を得ながら保全します。

○くぬぎ台など団地の環境を整える

計画的な住戸改善や住棟の長寿命化などによる再生を順次促すとともに、建替えなどに際しては、緑化や交流の場の整備、バリアフリー化などを誘導し、多世代が住むことができる住環境を向上するとともに、周辺の環境にも寄与するよう、安全で快適な歩行者動線の整備、生活の軸の強化などを図ります。

交通

○生活の軸となる道路を整備する

国道16号線とともに、和田町から西谷にかけての低地部における生活の軸である、相模鉄道本線南側の水道道の整備を進めるなど、道路体系を充実します。

また、道路網が弱い仏向地区において、生活の軸となる道路の整備を進めるとともに、緊急車両等の通行に支障のある狭あい道路の改善を図ります。

○丘陵部と駅周辺を結ぶ道路・交通を充実する

地域の骨格的な生活の軸となっているバス路線（和田町駅～西谷浄水場～鶴ヶ峰駅）や、川島町から帷子川の学校橋を渡って西谷駅に至るルートなど、丘陵部と駅を結ぶ主要な道路の改善を進めます。

また、交通量の増加に応じた道路環境の改善や、通過交通を呼び込まない道路網の整備について検討します。

○地域の生活を支える交通手段を実現する

丘陵部の住宅地の暮らしを支えるため、買物や通院などをサポートできるような、地域の交通手段の実現に向けた取組の支援を進めます。

○駅周辺の交通環境を充実する

陣ヶ下溪谷公園など緑の拠点や、周辺の住宅地への玄関口として、駅前空間や駐車場・駐輪場の整備、アプローチとなる周辺道路等の改良を進めます。

環境

○帷子川の魅力をまちづくりに生かす

潤いのある親しみやすい水辺環境とするため、川辺の道の整備や緑化などを検討します。小川アメニティや親水護岸など既存の施設を活用して、水辺のもつ魅力をさらにアピールする活動などを行います。

○豊かな自然を生かした緑を保全する

豊かな自然を生かした陣ヶ下溪谷公園やちばなの丘公園をはじめ、帷子川沿いに広がる斜面緑地や、まとまって残る樹林地など、緑の保全に努めます。

公園へのアクセスを充実するとともに、管理運営にあたっては、地域が協力できる体制を整えていきます。

○農地を保全する

生産緑地制度の活用等により、農地を農業生産の場として、また、災害時の避難空間として、保全していきます。

魅力

○自然や伝統文化を生かしたコミュニティをつくる

地域の特色である自然豊かな公園・水辺や、川島囃子など郷土の伝統文化を生かして、コミュニティづくりを進めるなど、地域の良さを次代に伝えます。

○身近なまちの歴史に親しむ

大正4年に建設された西谷浄水場をはじめとした、身近にあるまちの歴史を伝える施設が地域の資源として、これまで以上に地域住民に親しまれるようにします。

活力

○自然的環境を生かした身近な活動や交流空間を充実する

農地を体験農園としたり、農園付公園を活用したり、小川や樹林地を生かした子どもたちの活動スペースを生み出すなど、自然の魅力を享受できる身近な活動交流空間を充実していきます。

○地域の身近な施設を整備する

駅から離れた丘陵部に商業施設や日常利用施設が立地しやすい環境をつくります。

防災

○安全で良好な住環境をつくる

崖地の防災対策などを促し、安全・安心な生活環境を確保します。

○地域住民が主体となった安全安心なまちづくりを進める

地域における住民等や行政との共同による防災や防犯に関するまちづくり活動を進め、地域で安心して暮らせるための支援を行います。

